

第2学年 生活科学習指導案

日 時：令和3年7月7日第5校時

対 象：第2学年1組25名

授業者：織田 陽行

会 場：2年1組教室

1 単元名 めざせ こんちゅうはかせ

2 単元の目標

昆虫を観察したり、飼育したりする活動を通して、昆虫の様子に関心と親しみをもち、それらは生命をもっていることや、様々な変化や生態をしていることに気づき、自ら考えて生き物を大切にしようとする行動することができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 昆虫を育てる活動を通して、適切な世話の仕方や、それらが生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ② 図書の本やタブレット型端末を利用し、生き物の生態について調べ、生き物が生命をもっていることや成長していることに気付いている。	① 昆虫を育てる活動を通して、昆虫の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 ② 昆虫の変化や成長の様子に着目して世話をしている。 ③ 昆虫の特徴など伝えたいことを工夫してまとめて、伝え合おうとしている。	① 元気に育てたいという思いや願いをもって、昆虫に関わろうとしている。 ② 昆虫の生態に関心をもち、自ら意欲的に調べたり、観察したり、まとめたりしようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は学習指導要領 生活科の内容 (7)「動植物の飼育・栽培」に基づいて設定した。

小学校学習指導要領 生活科編 第3章 生活科の内容

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

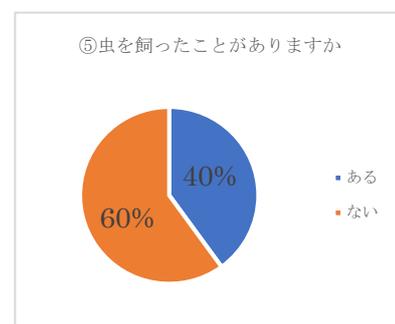
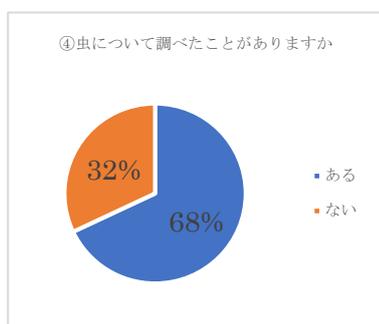
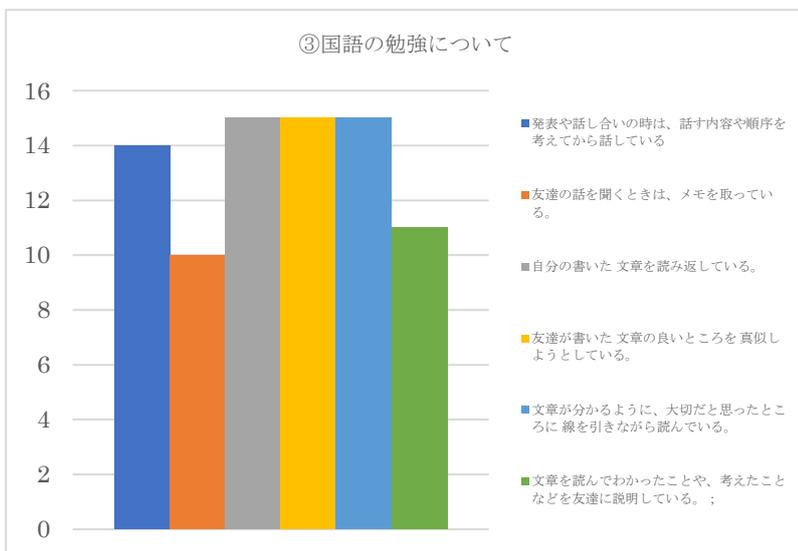
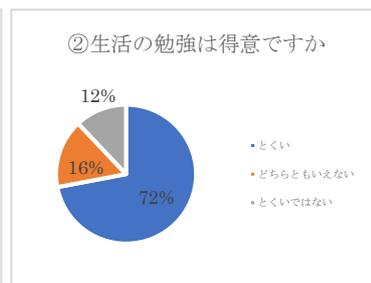
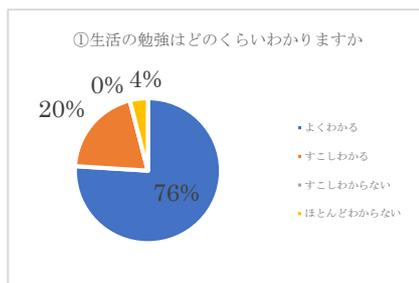
現在の子どもたちは、自然が少なくなった環境の中で、ペット以外の生き物と触れ合う機会が少なくなってきたため、生き物への興味が薄れてきているようである。

こうした環境で生活している子どもたちに、自分や他者を大事にする心情を育てたり、命の大切さを学ばせたりするためには、生き物に親しんだり大切にしたりする機会を設けることが必要である。そこで身近な生き物を探したり飼育したり、本や図鑑を使って生き物について調べたりする活動を意図的に取り入れることとした。また、繰り返しの体験や、調べる学習を通して子どもの気付きをより多面的なものとするとともに、1年生に伝えるという目的意識をもった学習を通して、コミュニケーションを行う力を育むことができると考え、本単元を設定した。

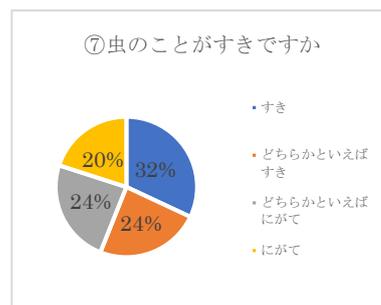
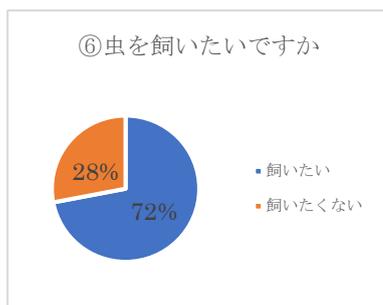
(2) 児童観

本校の研究推進委員会で行ったアンケート分析によると、本学級の児童は、生活科に対する理解度が高く、概ね生活科に対して主体的に取り組んでいる。※①②しかし、他のアンケート項目からは、「情報を受け取り伝える力」が低いことが分かる。※③このことから、交流活動で何を伝えたらよいか分からない児童が多くいると考えられる。本単元ではその点を踏まえ、調べる情報を精選することで、児童が伝えたい情報を受け取り、伝えやすいようにしている。

本学級の児童は、虫に対して肯定的に捉えている児童が56%であるが、※④⑦飼育をすることに対する意欲は7割を超えて非常に高い。※⑥しかし、飼育経験に関しては40%と低く※⑤、実際に飼育したり、自分で採集したりしている児童は少ない。本単元の活動を通して実際の虫に触れたり、実際の虫を育てたりする活動をすることにより、虫の生態や命の大切さに気付かせたい。また、虫自体に苦手意識をもつ児童が約半数おり、学級で虫を飼育しても活動に参加しようとならない児童も存在する。そのため、調べ学習をすることで、実際の虫が苦手な児童も、虫の生態や命について学習する機会を与えられると考える。

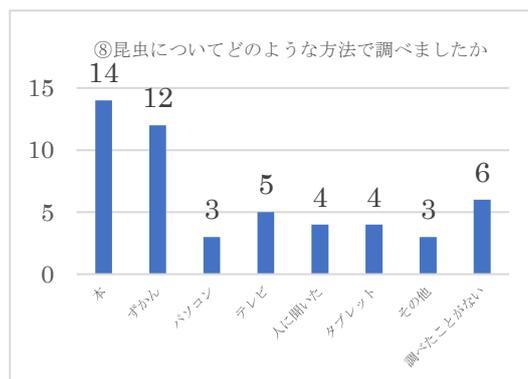


また本校の児童は、気になった虫を調べたことがある児童が68%と高い。*④また、調べ方としては本や図鑑の活用が大半である。*⑧児童にとって調べるといって本というイメージが強く、使いやすい媒体であることが分かる。



[分析結果を基に教師が意識する視点]

- ・生活科に対する意欲が非常に高いことから、児童が意欲的に活動する、「わかった・できた」と思う場面を多くつくる授業を展開する。
- ・昆虫を飼育した経験をもつ児童は少数であるが、飼育に対しては肯定的に捉えている児童が多いため、飼育する場面においては、児童の自発的な活動を支援する。
- ・昆虫に対して苦手意識をもつ児童には、グループ活動などを通して直接触れなくてもよいように配慮する。
- ・虫について調べたことがある児童が多数いるが、調べた方法は本・図鑑などと限定的であり、調べた内容を発表した経験は少ない。このことから、調べる目的を意識させ、相手にその内容を発表する活動を見据えた調べ学習を行う。



(3) 教材観

本単元では、昆虫を飼育する活動や昆虫について調べる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にできるようにすることを目指している。

そこで、本や図鑑、タブレット型端末で調べ、1年生に発表する活動を設定した。このことにより、主体的に学習する力やコミュニケーションを行いたいという意欲を育みたい。繰り返し生き物に関わる活動を繰り返すことで、生き物の不思議さや面白さ、多様性に気付き、生き物たちが成長する姿を通して、生命の大切さに気付かせたい。

また、昆虫の形態や生態について関心を深めることで、理科の目標にある自然に親しむ態度の素地を育成していく。

ア 地域の活用

児童が親しみのある地域の公園を活用し、虫取りを行うことで、生き物を身近に感じさせる。

イ 図書資料の活用

学校図書館司書と連携し、学校図書館にある図鑑や本を教室に置き、生き物の変化や成長をすぐに調べられる環境づくりをする。

ウ ICT 機器の活用

タブレット型端末を活用し、児童が撮影した写真や、調べた情報をすぐに共有できる環境をつくる (Teams の活用)。

調べる活動では、Teams 内の資料から調べられるようにし、調べる内容の精選を行う。

エ 発表会の設定

1 年生に発表する機会を設け、調べる活動の動機付けとし、コミュニケーションをとろうとする態度を育む。

オ 情報カードの活用

調べた情報の収集・活用のツールとして情報カードを活用する。

5 研究主題との関連

(1) 研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える
～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

(2) 研究主題を受けた目指す児童像

○自らの学習を調整しながら、粘り強く、課題に取り組むことができる子

[学びに向かう力が育成された児童の姿]

- 課題に対して、あきらめずに繰り返し取り組むことができる。
- 課題に失敗した際に、方法を変えて繰り返し挑戦することができる。
- 課題に取り組む際に、自分である程度の目安をたてて取り組むことができる。

(3) 目指す児童像に迫るための研究仮説

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から、児童の実態を把握し、実態に適した学習内容の工夫をすることで、児童が意欲的に学習に取り組むようになるであろう。

(4) 目指す児童像に迫るための具体的な手だてと、ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度

○調べる活動→【すすんで活動する態度】

- ・1つの発見に対して1つの情報を記入する「情報カード」は、気付きの数が情報カードの枚数になることで、発見した情報の量が可視化される。さらに、情報を端的に記入できることで取り組みやすいと考える。これらの手だてがたくさんの情報を得ようとする意欲付けとなり、主体的な活動ができるようにする。
- ・情報の精選の際には、発表に適した情報を選ぶために、記入した情報カードを見返す活動をする。これにより、必要な情報を取捨選択する活動を通して、見直して振り返る活動ができるようにする。

- ・教師が用意した情報を、タブレット端末を通して児童に送り、その中から情報を選んでカードにまとめる活動にすることで、児童が伝えたい情報を得やすいようにした。また、その手だてを通して虫が苦手な児童でも活動できるようにした。

○発表を意識した調べ学習の展開→【未来像を予測して計画を立てる力】

- ・ただ調べるだけではなく、発表を意識した調べ学習をすることで、発表に必要な情報の精選を行う。この活動を通して、漠然と調べる活動から、目的を意識した活動になり、児童なりの計画性をもった活動ができるようにする。

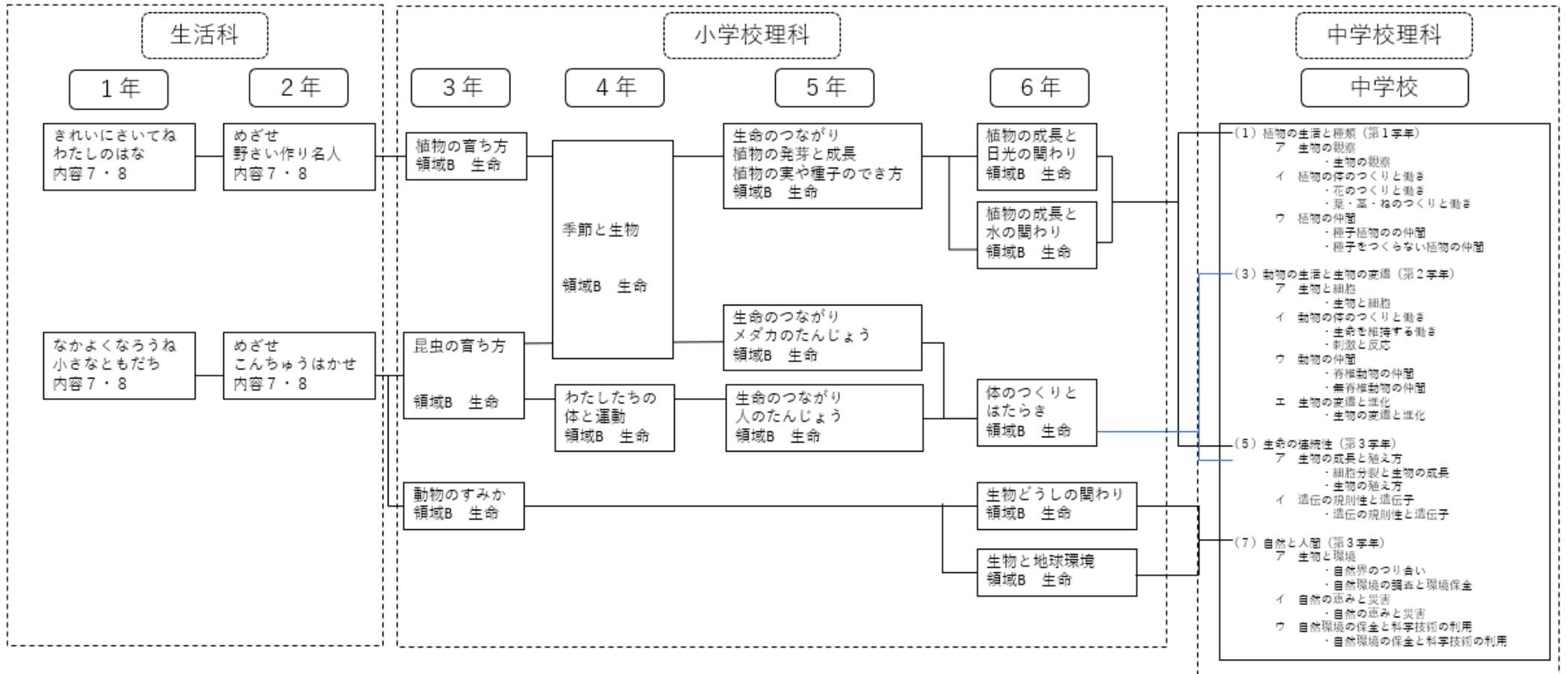
○1年生へ伝える活動→【コミュニケーションを行う力】

- ・1年生に自分達が調べたことについて伝える活動を通して、分かりやすく伝えるためにはどのような伝え方や見せ方がよいか工夫し、伝える内容だけではなく、話し方や態度などにも気付けるようにする。

○発表ブースを設置し、友達と協力して1年生に発表する。→【他者と協働する態度】

- ・友達の調べた情報と自分の調べた情報を集めて整理し、必要な情報や伝えたい気付きを相談しながらまとめられるようにする。また、円滑に発表活動を行うために仲間と話し合ったり、役割を分担したりする等の協働活動ができるようにする。

6 年間指導計画における位置付け



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	春がいっぱい たんぼぼのちえ	かんさつ名人になろう	かんさつ名人になろう	こんなもの見つけたよ	大好きなものを教えたい	どうぶつ園のじゅうい		しかけカードの作り方		みんなできめよう		楽しかったよ二年生
算数			長さをはかろう									
生活	わくわく2年生	まちが大好きたんけんたい	めざせ昆虫はかせ めざせ野さい作り名人	えがおのひみつたんけんたい			つくってためして			明日へつなぐじぶんたんけん		
特別活動					学級会をしよう			6小まつり				
道徳	じぶんでオッケー	元気に言てミニトマト		まいごになった赤ちゃんクジラ		ひろいせかいのたくさんのひとたちと		長い長いつうがくろ			まる子のかぞくへのしつもん	
音楽												
図工												
体育												

7 単元の指導計画と評価計画（全11時間）

次	時	目標	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
				ア	イ	ウ
第一 次	第1時	○生き物を育てることを話し合い、自分たちが生き物を育てることができることに気づき、生き物を採取したり育てたりする意欲をもつことができるようにする。	○家で飼っている生き物やこれまで自然の中で見付けた生き物、飼ったことがある生き物について話し合う。 ○学校の近くの自然の中でどんな生き物がいるか発表し合う。 ○虫について調べて、1年生に発表することを知る。			①
第二 次	第2時 第3時	○昆虫の特徴を予想して、生息場所や生態に合わせた道具を準備し、自分で昆虫を見付けることができるようにする。	○生き物を探しに行く場所や準備について話し合う。 ○安全に気を付けた生き物を探しに出かける。 ○捕まえた生き物を持ち帰り飼育する。		①	①
	第4時	○昆虫を飼育しながら、観察して、生態や形態に気づき、生き物を大切にできるようにする。	○生き物のすみかや餌について話し合う。 ○飼い方について、詳しい人に聞いたり、調べたりする。 ○すみかを整えて育てる。	①	②	
	第5時 第6時 (本時) 第7時	○昆虫を飼育しながら、更に不思議に思ったこと、疑問に思ったことについて本やタブレット型端末を使って調べ、発表会で伝える情報を選ぶ。	○昆虫を飼育して不思議に思ったことや知りたくなったことを話し合う。 ○図書室の本や、タブレット型端末、Teams を使い昆虫について調べる。 ○調べて見つけたことを情報カードに書き込む。 ○情報カードを使い、発表会で伝える情報を選ぶ。	②		②

	第8時 第9時	○昆虫の特徴など伝えたいことを工夫してまとめる。	○自分が飼ったり、調べたりした昆虫について発表することについて話し合う。 ○発表会の準備をする。			②
第三次	第10時 第11時	○1年生に対して発表会を開き、相手に伝わるよさや楽しさ、適切な伝え方が分かり、伝えたいと思う気持ちを持ち、すすんで交流できるようにする。	○1年生に伝わる伝え方に工夫して発表会をする。 ○伝わるように発表方法を工夫する。		③	

8 本時（全11時間中の第6時）

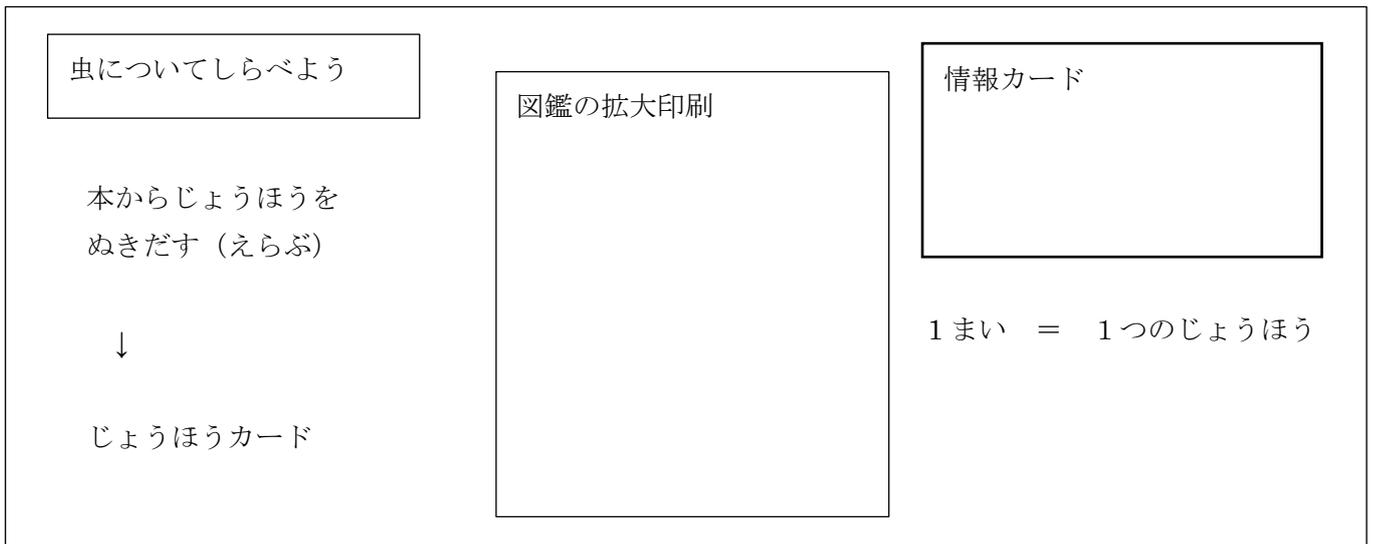
（1）本時の目標

○昆虫を飼育しながら、更に不思議に思ったこと、疑問に思ったことについて本やタブレット型端末を使って調べる。

（2）本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の考え	◇指導上の留意点 ◆配慮事項	△評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○前時までの学習を振り返る。 ○本時の活動のめあてを知る。 ・楽しそうだな ・苦手かもしれない	◇ワークシートを振り返り、自分が調べる昆虫を確認させる。 ◇発表が必要な情報を選ぶように伝え、発表するという目的を意識させる。	
虫についてしらべよう			
展開 (35分)	○情報カードの使い方を知る。 ・うまく使えるかな ・書き写せばいいんだね ○本やタブレット型端末を使い、情報を集めて、情報カードに書き込む。 ・ここに書いてあるんだね ・調べたいことを見つけたよ	◇拡大提示機を活用して、同じことを書く活動を通して、情報カードの使い方を確認させる。 ◇情報を調べるために、タブレット型端末や本が使えることを伝える。 ◇情報がある場所を、全体で確認する。 ◇課題について必要な情報が選べるように、繰り返し調べることを伝える。 ◆項目をマーカーで塗った印刷物を必要な児童に用意する。	△図書の本やタブレット型端末を利用し、生き物の生態について調べている(情報カード)。 【ウ②】
まとめ (5分)	○本時の活動を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。	◇調べられた内容を全体で共有し、調べ足りない内容を確認する。 ◇学習内容や学び方について振り返ることができるようにする。 ◇次時も調べる時間を取ることを伝える。	

(3) 板書計画



(4) 授業観察の視点

- タブレット型端末を活用して調べる情報を精選したことによって、児童が意欲的に学習に取り組むことができていたか。
- 情報カードの活用は、低学年の実態に即していたか。
- 児童が見通しをもって学習に取り組み、自分の学習について振り返ることができていたか。